9/28
赤旗

「対案でなく廃案に」

民主・北沢氏 与野党が論議

27日の参院本会議で戦争法案が審議入りし、自民、公明、民主、維新、共産の与野党5党の議員が代表質問を行いました。

自民党の山本順三議員は、衆院で野党側が「戦争法案だ」「徴兵制につながる」と指摘したことを「情緒的な議論だ」と切り捨て、「このような議論が国民に法案の中身が伝わらず、理解を妨げた原因だ」と、野党側に責任を転嫁。民主党に対し「反対なら対案を出せ。民主党政権でも数多くの強行採決があった」と挑発しました。

また「(参院の)最後には必ず採決する」と、参院でも強行採決を辞さない意向を示しました。参院審議の初日に、国民の声と議会制民主主義を侮辱する自民党側の姿勢が早くも際立ちました。

公明党の荒木清寛議員も「日米防衛体制を強化し、安全保障環境の変化に対応する。そのための法整備だ」と述べました。

民主党の北沢俊美議員は、安倍首相や自民・山本氏の発言に対し「国民が求めているのは対案ではなく、廃案だ。10本の法律を1本にまとめて、さあ対案を出せなどという毛鉤(けばり)の戦略には与(くみ)しない」と強く反論。「政府の安保法制が通れば、憲法は理知と愛情を失う」と述べ、「参議院が最後の砦(とりで)だ。われわれは、良心をかけ廃案を目指してたたかう」と決意を述べました。

維新の小野次郎議員は「(維新は)しっかりと対案を示して建設的な議論を行う」と衆院で維新が提出した独自案に、引き続きこだわる姿勢をみせました。

ウオッチ 戦争法案